



神戸町 防災士会だより

「地震！机の下」で命は助かるのか？

これまで小中学校で行われてきた防災訓練は、地震発生と同時に机の下に身を隠す訓練で、これが学校だけでなく、自宅・職場でも繰り返されてきましたが、「机の下に身を隠す」ことが本当に合理的な安全行動かどうかの検証はなされてきませんでした。

気付くのが遅れたり他に方法がない場合はそれでもよいですが、机の下に身を隠して、ドアが変形し転倒落下物などで閉じ込められた場合、火災やガス漏れが発生すると逃げられなくなってしまいます。

地震の揺れを感じたら、ただちに安全ゾーンに移動することが重要です。安全ゾーンとは、建物の損傷が少ない場所で、ガラスが飛散せず、転倒落下物の少ない安全な閉じ込められないスペースのことです。耐震基準を満たしていない建物の場合は、外部に脱出するほうが安全かも知れません。ただし、素足で外へ出ることは大変危険です。

阪神・淡路大震災発生時の死傷者のほとんどが室内で災害に遭遇しています。早朝の地震ということもありますが、死亡原因の83.3%は建物の下敷きや家具の転倒落下によるものでした。

地震発生時間帯にかかわらず、死傷者の大部分は室内です。つまり、全体から見ると室内は、危険地帯と言えるのです。そこで、危険地帯の中でも比較的安全そうな場所をあらかじめ安全ゾーンと定めておき、地震の揺れを感じたり、緊急地震速報を見たり聞いたりしたら、ただちに閉じ込められない安全ゾーンに移動することです。そして、揺れが収まってから、さらに安全な外部の避難場所に避難することが大切です。

従来防災常識とされてきたことも、環境の変化に柔軟に対応できなければ、陳腐な非常識となり、自分や家族に危害が及ぶ危険性があるのです。



神戸町 消防団だより

1年間消防団を経験して

第2分団団員

消防団に入団する事になった際、消防団がどのような活動をしているのか私自身深く認識していませんでした。実際に入団し、消防団員としての心得や行動について説明を受け、地域にとって非常に重要な組織だということに改めて認識しました。

日常の訓練には、規律訓練や災害を想定した訓練、操法訓練があります。その中でも操法訓練は、コロナ禍の影響で限られた日数での訓練となりましたが、私の所属する第2分団が小型ポンプ操法部門において郡大会で優勝、県大会を10位入賞という成績を収めることができました。私は選手をサポートする立場として、消防署の方のアドバイスを選手に伝える役割を担いました。そこで得た知識を自分自身の今後の消防団活動にも活かし、火災が起きた際、迅速に対応ができるように日々努力していきたいと思います。

1月26日

文化財演習を実施



1月26日(木)、文化財防火デーに伴う文化財消防演習を実施しました。文化財防火デーは、昭和24年1月26日に奈良県法隆寺で発生した火災をきっかけに、文化財を火災・震災・その他の災害から守るとともに、文化財への愛護思想の高揚を図るために定められた日です。

今年は、日吉神社からの出火を想定し、地元井田区・宮町区・丈六道区・高塚区の皆さん、女性防火クラブ、大垣消防組合の協力を得て実施しました。区民の皆さん、女性防火クラブは訓練用消火器により初期消火訓練、消防組合と消防団は車両器具を使用した消火訓練を実施しました。各隊ともに日頃の訓練の成果を発揮し、迅速に消火活動を行うことができました。

今後も訓練を重ね、皆さんの生命と財産を守るために活動していきます。